

柳菴抄

庫文閣内			
函	架	冊	號
一四九	一八	一六三	一三
			和書類

内閣文庫		
番號	和	16313
冊數	5	(4)
函號	149	70

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

C Y M

color checker

xrite

MSOPPE0411

xrite



柳菴婦女傳卷之庫

和學講談所

菴有云河

寶樹院殿傳

菴有云河菴寶樹院殿從二位樂子
の監籍と爲り小野右衛門右衛門
麻村より出く流し元來武列

江戸の佐人なり細小 在徳云河代

幕府の士於念や之府とて縁八百石と

似し出膳とてお勤り家本傳

系と云ふあり彼小親金の苗氏と授
弟親金也之播と名宗と家の執分知
初方の女配号万幸万福と名川せし
むらまはま主人也之郎高死し初之郎
叔父親金右系進貴高して水戸中代公
親房公小佐と名弟成役と勤居公小甥の
也之郎死去小付水戸より江戸又來り
也之郎死去の訖式始末とて、実録一
事小也之未成年一事一は條記川原

ありは是ハ其金銀を方お成志と却定メ
出す一してして押籠り公家と名居志未
知也とて作是拾授の子小之也之郎と
は兄弟公名是也右系也一は未西詰せ
はと一は也之郎ハ又授授乃出此子あり
是比作是拾授ハ強府一より大柿屋へ
池一又江戸小來り
名通云一洋一と名居志之播知是方ハ
様名一はととてして不俊又の公ハ

系と方(院云と加)云々のハハは及於金也之系
お累々色子島となく(院或と云々)海子
なり(云々)と想ふ未(院)ハ女之系たぐん安
正仕ひ名(院)まうくと授け(院)宗と年久
し(院)下仕ひ(院)切と云(院)寺(院)とのそ
こ(院)おれハ(院)想ふ未(院)命の救免(院)まうと
逃放(院)せ(院)色(院)流(院)る(院)一(院)とて(院)作(院)其(院)控(院)授
ま(院)う(院)許(院)河(院)中(院)ま(院)う(院)し(院)在(院)系(院)進(院)も(院)て(院)理(院)
伏(院)し(院)想(院)ふ(院)未(院)死(院)罪(院)と(院)看(院)め(院)て(院)逃(院)放(院)す(院)也(院)也

右(院)戸(院)の(院)伯(院)長(院)た(院)る(院)乃(院)け(院)付(院)想(院)ふ(院)痛(院)ハ(院)て(院)盡(院)無
男子(院)を(院)人(院)女(院)子(院)或(院)人(院)と(院)し(院)て(院)連(院)る(院)中(院)野(院)或(院)系(院)傳
那(院)古(院)河(院)城(院)下(院)鹿(院)麻(院)村(院)ハ(院)河(院)原(院)ま(院)う(院)て(院)川(院)邊(院)野(院)長(院)の
身(院)と(院)如(院)て(院)一(院)父(院)在(院)島(院)と(院)名(院)と(院)改(院)む(院)え(院)未(院)流(院)人(院)を(院)是
ハ(院)百姓(院)と(院)も(院)貴(院)人(院)も(院)見(院)ハ(院)只(院)何(院)と(院)の(院)事(院)也(院)奴
流(院)人(院)の(院)な(院)る(院)果(院)名(院)と(院)知(院)り(院)さ(院)る(院)揚(院)人(院)の(院)松(院)子(院)如
く(院)想(院)ふ(院)未(院)流(院)に(院)激(院)力(院)負(院)亡(院)筋(院)子(院)及(院)て(院)流(院)世(院)の(院)言
之(院)一(院)目(院)と(院)て(院)遠(院)り(院)の(院)力(院)た(院)る(院)事(院)也(院)後(院)誰(院)と(院)も(院)者(院)こ
以(院)人(院)目(院)流(院)世(院)ハ(院)流(院)多(院)取(院)て(院)貴(院)代(院)也(院)漸(院)く(院)一(院)日

道より或時法度より鶴と見付く法能よりて
際小鶴と書けり古河より江戸へ持来り
目印梅と云ふ田原所の為同屋中隠役お賣
く代替へ金子預れ古河へ持り是より妻子
御育徳き仕合ふると誓く今日の夜より
おけり故度不及く人に見せぬと云ふ
然るに忽ち熱氣巨捕りて云 云御守割た網
しりく信付くると雨の鶴と云ふと云ふ科小
より死罪おけり也と云ふ此野古河の

城より永平信徳寺尚政教より九万石と云ふ
れりが彼の趣き未妻并男子より人女子或人
曰人御り志と成て信徳寺よりこれに後信徳
寺是女立花たるを御監忠義 後信徳寺
御監忠義 方へ
嫁娶の時彼の女房の業と名付て某の石を公
去付く是娘を人へ持蘭と名付充おと立花
あり是よりれを人此女子へ信徳寺奥方より
おけり勤仕男子并 後信徳寺
御監忠義 八彼方此方
小鶴より小性云云

一記小男子年之助ハ佐徳寺例とく仕

又五ノ小坊主成リテ後年

云渡ハ長出之是初知と御リ坊ハ深窓

と号スル村長和泉寺家宗是女と

老ノ年々ハ以婦ハ他家を公す佐徳寺

小長勤め以是人の姓杉蘭ハ後ハ杉榮

の方と稱シ表有云の法母堂之

母申又立花女を御監老成の奥方御成

死去ノ詠テ紫杉蘭女ノ詠とわさし又小

之長佐徳寺家人ノ七次御成とて知シ百

五十石御取給人格の志あり彼是毎

ハ後書を申し杉柄は是ハ昔ノ彼紫と縁と

縁也嫁娶下ル加ハ杉蘭の方と紫杉ぬ御成ハ

母子在ハ川水ノ杉蘭と実子のとく表有

す初て御成ハ御草舎ニ店と傳へ町宅

セハ杉蘭四月の夏なりハ杉蘭ハハ

かて杉ハ長々也小

大節云の御乳母を日局御草視表(幸福)

途中より、家物の田より於蘭をえ付是を
爲て、將軍家御座りの生進時々なり
於ハ、色を多し、忠告不入、魚紀、風俗ありて
参り、色は、ち作ら、馬、丈、婦、不、足、く、於、テ、座
を、誰、少、と、足、と、以、何、方、と、も、昔、云、よ、出、す、り、と
以、と、堅、御、東、あ、つ、く、去、日、向、ハ、御、城、ハ、
由、く、休、の、極、子、と、沙、前、少、く、沙、津、よ、と、ら、是
し、つ、た、は、直、連、と、多、感、く、と、は、か、

一説に云、大敵、ハ、御、劍、女、於、方、の、方、死、去

よ、付、く、御、津、ハ、沙、愁、歎、な、く、れ、と、言、お、つ、
ま、さ、此、増、と、寺、ハ、沙、津、は、を、ま、さ、り、て
沙、城、より、直、林、津、ハ、沙、の、家、於、こ、に、ま、ま、痛、
横、浦、ハ、指、く、れ、ハ、八、百、部、の、津、の、田、よ、
於、方、の、方、ハ、修、組、を、も、娘、横、女、よ、り、
見、を、く、ま、く、た、た、め、之、人、中、合、さ、れ、横、
浦、より、人、と、下、し、津、の、卯、(付、直、彼、娘、
出、る、成、月、と、付、さ、を、直、ま、し、り、と、母、ら、し、
ま、を、直、連、立、て、海、り、け、る、成、見、付、向、り、ハ、

夫老ハ一方向の娘なるやあらは沙城
なると言ふ小出の御一もや終るハ
此今は様友あり侍の沙城女中を
娘と目し付り尋ら道娘の御沙城
正者より魚三に去けまをさる母理
くまとの御娘は八重と申す此れハ
千波連合女と申すとお信成す
と推致す終るハ一方向の御方
取けをハ漁合に居おと連合ハ右

是れ七代御と云（此は八重の御方）
三人の御方より古名七代御方一人を
古く娘沙城（此は古名御方）娘お言
の御方と云ははれは後長波の御方
をいれ却付女中合被娘亦
いふはせしと云は柄の御方
大融云沙城の御方（沙城の御方）
く折る古く娘西宮御方波是折方の
方不似し下り為る御方御方御方御方

教有公と依ありきるたの母ハ後永元
院殿と稱せし教素生と野呂長河
城下麻系の人と之よりめ大猷云の
沙例女と成お蘭と改之お樂の方と
号は云はれし懐妊する處是日句以て
永井佐法寺忠政に御成ありと依
法寺娘と云はれし時不寛永八年辛巳
八月二日亥に河本丸と稱し若君
沙誕生 竹中代元と号はれ教有の

以り之が軍家の御母を有る依と依
三位不叙せし御沙を教お川と云は
族も沙れ之あるあり御不兼延元年
壬辰十二月二日逝去去長今東殿山小
舞子沙法名ハ寶樹院殿從二位華
城天宗大姊

は時 教有云沙十二歳の御時也

お樂の方此沙妹子

但増上源云云
娘名年く御

又此身と云は源云ハ
右おハ八姉なり 高水後山

式部左輔信茂子 今川氏志 小婿

要一孫おとと之有一子もなき言ひ事也

セリ公嗣子お徳元お松平山城守重

勝次男と長子メテ孫子石をお孫

セしむ

柳野金氏日本姓太系を考其先

祖八人皇之十七代孝徳天皇氏後

流也元來お撰お小田東城主お藤家の

幕下の健士なり数度お戦功ありお

依く天正十八年庚寅七月お回京

後高の後二大補君一姫お礼長女

兼北郡子石御り後年水戸中納言

お房々へ附せしれ水戸お徳姫也

お婿男お金勘解由考方八絶伴大納言

お室々へ附せしき絶良お指伝あり

次男お金考二弟八伴良お指伝あり

及武田家の充長お徳考お吉氏考を

末孫云お徳助昌考を嫡男お盲人お依

伊豆拾掾と成りし軍家より是は天下
の勲授授け彼拾掾六十餘歳を以て一子
なる山(女)と初年(内)苗子と
云々半(助)と稱し始て
仁徳公(小)を仕す河(小)伊豆六十二歳を
して男子を生せり是と云々云々
知貞と稱す是は依て去(云)半(助)ハ
中(名)朝(女)之(齊)と改めて新(知)大(官)石
御(と)仁徳公の(少)孫(女)代(勤)仕(す)御(と)

孝長十八年冬九月廿二日
病死す嗣子なき小依(と)甥(の)朝(倉)
織(成)老(助)と苗(子)と一(家)督(せ)一(免)
織(成)老(助)ハ大(敵)公(乃)少(孫)代(勤)仕(す)御(と)
少(孫)代(勤)と勲(免)河(小)丸(と)連(女)出(陣)あり
ト(成)之(女)メ(武)子(石)と御(と)先(祖)朝(倉)太(右)
弟(と)考(高)ハ(少)孫(代)勤(の)子(子)とて(織)と
お(す)の(と)子(を)り(と)成(女)世(孫)太(右)
お(の)孫(と)中(と)一(少)孫(代)勤(又)今(の)世(を)

与用子之太系を嫡男於舍勘解由也
能亦子と云て記及又伯く能の曲尺
と教(能と亦せし)小名人より今平
鹿东保とてお人の子孫能歩の云
紀列し伯メ人名と云是能の名他なり
是子始祖ハ於舍勘解由人なり
傳抄の曲尺と云

備山洋山少彌正利ハ幼名弁ハ助とて
又於舍勘解由と云て彼方此方と

小方加方(小姓)云々と云勘解由ハ也
又高(高)姓於樂の方大寺の底於也

よつと寛永年 月日

お軍家(姓)云々と云勘解由ハ也
油屋又油加也云云依合と云云依也
油屋す之後初名高方と云勘解由
て油屋す之安四年辛卯八月十
八日叙從五位下但左志門云云
油屋者
油屋云云付又改洋山少彌始ハ正利

後正院改むる後万治元年己亥加
志を万石と物り給て参上備是取西
尾城を平領し旧領合て貳万石と領
す寛文貳壬寅七月廿八日歿于江戸時
四十餘歳洋正少弼正利同室八松平
和泉守宗春の女と嫁娶又後の和泉守
宗久の婿婿之細色大和院堀利之嗣子メ病
死す存正利ハ侍将出陣与方取決意江吉
資祿の嫡之孫とて貴子と爲る故利源

と改む寛文二年壬寅表又利院の嫡孫と
爲る西尾城二万石を領す是故初年より
参上西尾ハ梶原の地八百石と爲る同三年
癸卯七月十一日加恩二千石と爲る西尾と物り
給て其下領地二万石と物り西尾と爲る
去庫正利長小堀小同以甲辰十二月廿八日
歿後其位下領ス去故也備備改正和泉守
宗春の命と爲る元禄十八年壬午九月
初日下領城を物り其長孫城(後領合

孝子石山高之海り洋行す寛
永元甲申六月廿日武臣中左の儀
そて歿す時六十一歳法名常規院殿
前左衛門尉了是大居士と号す武
臣上野東殿山北内勸修院又藤山
嫡男増山内記正忠知念大助元禄
十年丁丑十二月十八日叙任従六位下
封号与寶永元年甲申七月十六日継
家督成老鴻城二万二千石八月廿六日

正忠才大孝正元之父也一依の内子依
死分の処子世そり貴海之丞娘名寶寶永
六年戊子七月廿日小左衛門と改め前々
勤功也む妹八村平和泉与家基次男
内通以家基と嫁娶せむ是又縁之
正忠嫡男政次帝正武享保四年己亥十二月十日
従六位下叙し彈正少弼之任也正忠八絶又正
承業為沙養者番と改封号也又改河内守
増山氏名字出和系伴紫の外方也又依

其後告而号坊山氏不令明在洋正左正利
其又七次作在為八江戸湊金河原又作居也
兼座也一々の時武士と成て七次作在と
号正坊樂の方と赤川お初を傭多如室坊
山洋正少弼利澄是才之人一按一生ありて
初余想を求実子之想を求死刑の後妻
紫七次作在為清宗小再嫁又出生の子在
那次を以て吉賀洋毛利刑部少輔元初同
室平野丹波吉長又津收兼中吉佐政

室天台宗室海法下付六人七次作在為
清宗の实子之那須を以て吉賀洋娘名吉妻
知名權八郎八大概冠極是廿八代末孫
那須立一宗隆的傳那須左京右衛門資宗
の甚子と為く永應元年壬辰十月八日
他家營從知下野正内を以て吉賀安田
年辛卯八月十六日叙從六位下任不
在江古後也吉賀石加是也賜り於各
式万石と成り下野正内山城守と為

子嫡子之被氏兄始山澤正心利為
貴子及之嗣子依之津恒部中子依
政次男津恒自殿之為貴子依之將軍
德者云の命政那須与一資德也幸
江古資德貞享四年丁卯六月古有
致す依
德者云命德又造那須と在江古資津
實子福系臣於立而不流垂也と在平不
耳て云備(形と)と幸二依之身少と

依之那須家忽ち滅せし一族志く
因つて當く藝永く如平野丹波古
長政八如右權平寛文六年己巳七月
十八日平野權平長信の貴子と為り
依六百石因七年丁未十二月十八日叙從
六位下但丹波古有命不列す元禄十
三年庚辰七月廿日歿江府時六十九歳
此名副林院殿左丹次古守瑞藏久祥
大居士と号し芝高梅泉岳寺に葬り

長政嫡子平仲為長英繼父是政嫡女子
之又交代身合と稱す小享保又
年庚子六月歿江府實子三子とあり
之知少右田長九左為長 次男長高
と長子と稱す後家督改号長平之為
長英實子と稱す長平長子と稱す云々
清宗末子並海法平と号す之野
東殿山の月為平院の實子と稱す
平院大阿闍梨並海法平と稱す

清湯老岩山並長麻坊天台宗教密信
之け男子三人是也 高徳公の御叔父の縁に
心長世之人及女子二人ハ七次作在清宗
の實子之
寶樹院殿とハ統祖の法兄也又母兼
泉光院殿又ハ於樂の方と稱す一撰一書
又七次支那の方ハ 高徳公より清宗
カとメ合子也小百人杖持死を初り秘
昌一後小支那とも稱す又清宗、雲陸

入及と号し之室案の方八泉光院殿と
号以因安沙一の内代友可元元と号
伯丈婦古小長命と又果報申安言
され与雲晴入及八天和武年壬戌十月
廿二日歿於江府園口は名随雲院殿
宣次日形大居士と号以時と九十歳泉
光院殿八員享年丁卯六月廿日歿
于園口法名泉光院殿妙院日新大姉と
号以時と八十六歳丈丈婦古と法華宗

ありと或は園口他光山蓮華寺と号す
依き三郎 右軍總右と号し園口蓮華
寺入の依依料百石寄附せり於御来下と
ゆふ丈婦古長命と又果報申安言と
安人た又死去也安小一の不思成子
あり皆山他光院殿の御婦と号光慈院
殿と号し之は安沙と号他の方と云
常憲云の沙例女と号は之松原と号し
鶴姫表 徳松表と号依沙袋極と号し

後小丸殿と号し
常思公薨去の後小丸院殿と号し
為村三丸と号し
昔將軍家沙舟書院殿の
流之是仙光院殿の又沙舟子として
表有公の沙舟書院殿と八沙後又兄
才遠の沙舟族之裔也 徳松表と号し
あり甚沙舟書院殿と一族也
の如く沙舟之と号して世々傳昌す

徳松表ハ敏林の沙舟族也
徳松表ハ敏林の沙舟族也
徳松表ハ敏林の沙舟族也
年辛酉 沙舟丸
沙舟流由して

貞享式年乙丑二月十一日沙舟入雲あり
不孝又メ天和三年癸酉正月廿八日又
威あり沙舟早世之 齋藤元沙舟長由し
として記作中の云徳教ハ沙舟屋中として

小男女の長由りてきりて元禄十

七年甲申四月十一日沙由（古六殿）又

逝去し後小由りてきりて元禄十

七年甲申四月十一日沙由（古六殿）又

逝去し後小由りてきりて元禄十

七年甲申四月十一日沙由（古六殿）又

逝去し後小由りてきりて元禄十

七年甲申四月十一日沙由（古六殿）又

逝去し後小由りてきりて元禄十

養育云卿母堂

寶樹院殿之傳京

増山氏（前）友弟姓

家紋 九四二ノ合
幕紋 鹿子

● 清宗

七次印在馬 後判發祥雲法

江府薩翁河尾又作す鶴丸の妻を娶

於樂の方為君と奉養又付之成之後

入於雲法と号し、徳子増山、淨正、右利院
氣官の屋浦又居候

天和二年壬戌十一月廿三日歿

法名随雲院正次、日影、大居士、葬于園口蓮華

寺

室古河城下、辰史女

夫、熱丸刑、
付子、在、上、下、相、と、如

古河の城下、永井太也、大吏、高政、奴、婢、と、如、太、上
兼、下、君、の、村、寄、免、せ、し、是、江、戸、一、か、奉、屋、一、支、嫁
し、子、太、也、一、而、立、り、女、子、八、十、九、年、は、又、か、室
子、より、一、家、具、昌、中、裕、泉、光、院
貞古子、巳、年、丁、卯、六、月、古、日、歿

法名泉光院妙澄、日影、大姉、目白法華

寺又、兼、子、は、寺、通、り、建、立、し、右、寺、名、号
泉光院蓮華寺

幼名、弁、那、
増山、淨、正、太、
左、馬、太、
從、六、位、下

利澄

始正利

母泉光院

賜、之、尺、下、銀、一、千、兩、二、方、石、為、法、養、者

安永四年辛卯八月十六日叙從五位下

左馬右史後改洋正左
寬文二年壬寅七月廿八日没附四十四歳

資祿

或資弘始高春

母同之

为明頃在京受資宗貴子家督相續

安永四年辛卯八月十六日叙後六位下

任左近将

女

祿寶樹院殿

表有云河舟雲

兼色元年壬辰十二月二日逝

法名寶樹院殿從二位華藏天業大姊孫

上野市殿山

利順

始山名於十捕

为增山利澄貴子

資德

初次与一

寶津恒親中右佐政二男

乃伯文昭漢志以古資禮書子

幸憲云徇名改祔於次五一資禮

貞享四年丁卯八月廿六日誌資禮書

臨於野民為山城二方之討書又資禮

實子於此民於歌德又志一願出於

云儀資禮及家智古編修十月十

四日云改收米地於于津恆佐改藝長

于與民弘安

元祿十二年庚辰四月廿日 大猷云六十

四忌因六月八日 歲有云廿一曲忌友

大教討書 忠免一因十口年辛巳

十二月廿日再海抄軍家因廿九日賜

于石抄書合寬永六年戊子六月

廿九日及討三十七歲

某

昭漢民神 改祔後事書

貞享四年丁卯八月廿六日昭漢與一

神傳定又資禮書之於於 云儀

因是母子在因

元禄十四年辛巳十二月朔日母子先

诔元禄平野丹波吉长改

賀

女名老丸
形次五市

寶永六年戊子八月廿二日經文在臨河

位子石入者令

長改

平野丹波吉
如同上

位子位下

為平野檢年長儀者子位六石

寬文七年丁未十二月廿八日叙從五位下位丹波

吉

元禄十三年庚辰七月廿七日歿時年九歲

法名鳳林院殿瑞藏久祥大居士葬芝泉岳寺

長英

平野大馬

元禄十三年庚辰七月十二日始生

常憲云

同年九月 日德又老政相依入小女衣

享保六年庚子六月 日殁

系

少名長次郎 九郎之丞
平中 隆平

実因氏九左衛門次男

津恒越中古任致室後号桂林院

女

伝平

少名平翁 和羽古
津恒古依古 従六位下

資徳

始名津恒之水 和羽 之殿
和羽与市

为形須を以古次男祇養子

伝具

少名平翁 津恒大系翁

母松平文因少輔忠尚母
室也末左政大臣家悲云女

系

少名持忠代 津恒出持古

女

光利刑部少輔元知室後号日香

万治元年戊戌六月廿三日歿

法名蓮華院殿妙蓮日香大姊葬小日向

明白仙光山蓮華寺

光利作福寺

元長

延寶六年丁巳七月廿六日歿於長門時女殿

少室格之布

因張

匡廣

毛利禎政与

計成元年

圭滿法下

系

上院于重院才于日不字香院又事於老岩山長座坊

伯藏

下腹

少名

西河

増山香初少輔

後女位下

如白祿利順

寶曆次幸以子寶祿祿嫡男 女母

出母松平和泉守宗壽女

為增山澤守利隆甚子継家管上及志壁

於下鉸城二万石

寬文四年甲辰十一月廿八日叙從六位下

任去於少輔

元祿十六年壬午九月廿日轉下鉸御執

長治城

寶永元年甲申六月廿日歿時六十一歲

比名帝親院殿右朝右亮大居士藤

上野御音院

女 津恒部中右佐政室

少名大助

内記

對子守

正史

母永井右近守高仙女

室小笠原信濃守妹

元禄七年甲戌七月十日元禄改日記

同十年丁丑十二月十八日叙從六位下位

對子古

同十二年庚辰十二月六日命緣組之

事

寶永元年甲申七月十二日繼父老

臨終長子修城二万石同古八日派

謝家督之事内 内披女令十枚八月廿六日

送山古子儀死分才大學

女 松平刑部少輔宗具室

正元

山名大學
塔山古子

系

信山大三帝

寶永六年戊子七月四日為左馬

出子

氏

お名政次郎
信山宗宗廟

後六位下

教育云清乳母

矢鴻局 中統

養育云清乳母の初乳中松平侍臣書

位銀をりよと清乳母節目能く者

清乳母知又牧野因幡守家中將書

その妻清乳母又付かしの八件定書是

と尋りて是より是ハそ方支勸方縁何

柳家師女傳不

種九中とまりをハ二百石丸の中換投し
叔乳母ハ因幡守方ハ改りしけりハけり
御とまり丈の祿の事と沙為し付二百石
と中ハハ方極水とまり取りとまり
しりしは沙合と中まり（き中と中し付
因幡守とたし志怪と志なりしりた
是北あり縁と二百石と一りたし乳母
正かさ進後ハ 養育公の沙局矢瀧と
祿せしむけ矢瀧宛お出産の女子正か

さ進小瀧と云しを後ハ沙旗中牧野ハ
正かハ嫁せしむ矢瀧正かさ進しと云
矢瀧取持して乃と進しと云丈の後妻
矢瀧正かおせし好ハ
云備ハ正初と進と二百石沙旗す浪妻
因幡の妹此因一人ハ沙汀醫佐田玉川
嫁せり

抄九の... 八の百石... 加九の... 國後... 大活... 此の... 此の... 此の...

柳菫婦女傳系卷之十一

在名流傳之傳系

傳國... 此の... 此の... 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

柳菫婦女傳系 十一

此の... 此の... 此の... 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

柳宮婦女傳系卷之十一

常憲公所母堂

桂昌院殿之傳系

二條園白光平公家司本名氏と小小路家の末葉系
 於賀茂の神職より如きり細く本名氏と改前書と二條
 家利代と到く始く本名氏と改前書と二條
 家の女とく女子二人男子一人か生け一人
 の女子と松平九つ辰興本名氏井氏也書一人比女子
 と彼時書系書也男子と二條家兼堂本名

文因少輔宗孝是也後妻と妻女よメ京都堀川
通西教所八百屋仁在馬と云々太前左邊方一八
か入の志比妻仁在馬死後嫁婦となり女子
或人石連と云々太前左邊方一騎を公よ
耳りし小子と付と男子一人とお生は別
中元因幡守宗資是也石連と云々女子一人と
大宮大藏左輔妻昭光院と稱す之因一人と常憲公の御
母堂桂昌院殿一品太夫人是也桂昌院殿と始め
於玉と云々時六條宰相有純々の息女お梅の

方此縁を以て京都より江戶へ来た大猷公の
御代と云日乃諸事と指南し河側へ去
か秋と云と稱は縁を以て正保二年丙戌正
月八日 德松若常憲公と稱しなり
德松若其後敏林宰相細衣若と稱しなり
一付 桂昌院殿と云敏林河殿と河伯長公不延
寶八の辰申六月八日 將軍家細公薨去し付
敏林宰相衣不延と河表若と云河殿河世
河相續有と云一付 桂昌院殿と云江城三九と

御後り有る後貞享二年乙丑從二位下敎せ
られ御印族多しと云(在) 桂昌院殿の如く
る御仁惠傳ふと云又於い辭し中名家此
御一族ハ少く不及る御印族御意族悉
く御取立有る御意も御位家世と授くと
つ楯と大い御才一佛神と云く御信仰有る
諸寺諸山神社佛宇を授く御再興有り元
祇十六日壬午二月十一日從一位下御昇進有り
是より於く御家元中名家御意御宗賢固貞佐

与宗喜会庫頭宗信又子武人一和年の御祿
号と賜く之御印恩光又依く之御家と再
具し或之門楯と祥也者嘗く多しと云(在中
下知く六角親前古廣治大決如雲古慶林大決播
磨古基次と取決派古茂高田甲斐古知忠
具津能也古宗策戸田中勢古惲長具森安房
古利佐野豊前古重行佐野佐濃古勝富吉家
是より各 桂昌院殿の莫古此御恩光と取立
る寶永二年乙酉六月廿二日 桂昌院殿三

凡二於之御遊去時八十餘年御法名桂昌院
殿後一位仁譽興國惠光大御尊牌之内御
職貞養大御正也武江芝坊上寺金剛山の
下ノ尊子ノ想御遺言ノ修ノ御所ノ傍ニ
常念佛の始メ念佛の六百石靈屋の七百石
初合子式百石御寄附有リ

藤原姓

中元氏

賜稱

家紋

九月緒二股大指
幕紋被桶大流



後考

中山路之内太輔

後口位下

宗利

中元氏御寄附

如字正

二條関白光平公家司

法名感慈院殿入西宗利居士尊系於宗余

女

松平左門義賢妻

女

依野表若勝百書

宗孝

如若左御者
如左文内女備

依六位下

或道芳

母二條殿卯乳母

祐昭光院
奇榮大姉

卷

始仕二條家乃難掌又非若人在利教及祿原
之事又他書後依 桂昌院殿有大幸宗孝
亦有仕 表有公賜三下儀依 乃命若仕館

林宰相綱去君為老后

兼在二子乙巳正月十四日教依六位下依文曰

少備之後加恩子石田領左拜領日子石

寬文八己戌申六月廿日教於江戶時六十六年

葬于清平田島山誓新寺中收樂院住持因珠

導師九譽上人也

女

一條殿家司

大文大為太備入通源海宗賀室後祐瑞光院

母同宗資

元祿七子甲戌六月十二日歿於江戸時八十餘

葬送葬于弟都峯倉

女 於玉方 稱秋野御方 三兄桂昌院殿 從一位藤原家子

常憲公御母堂

母 同宗實

元祿十六子壬午三月九日叙從一位

寶永二子乙酉六月廿二日逝

御法名桂昌院殿 正一位 仁譽興國 惠光

大姉

宗實

母 稱 延光院 正一位 仁譽興國 惠光 侍從

母 稱 延光院

在仕 常憲公

貞享元子甲子十一月廿六日叙從六位下

因幡吉

同二子乙丑正月十一日叙賜太子衣

同三子丙寅正月十一日加冠一萬石

同日子丁卯正月十日加恩一万石

元禄二子乙巳正月十日加恩八千石

同日子庚午十二月廿六日叙従四位下同

女七日為后名禮八十八日

同日子辛未十一月十日 常憲公并御母

三九始後許于宗資賀寒時加恩二万石賜常衣

笠百城同十六日祚持二本道具

同日子癸酉七月十四日賜溝口佐濃古宣廣下

管之居宅八月廿一日再後許于宗資賀同七

子甲戌四月晦日後許于時賜一万石十月廿

六日後許十二月九日叙侍従

同十二子己卯八月十六日叙中時六十餘年

法名安善院殿本譽貞實園心大居士葬於

新寺中照光山安養院

願教

南於弥勒院住職長加法師

少名中名豐之守

左部左衛

安藤古 松平豊城古

松平伯耆古

従四位下

侍従

資後

如宗後

母兼河内守賴利姊

後号孝昭院寶永
二年西月六日發

元祿四子辛未十二月廿八日叙從六位下任安

藝古

同十二子己卯同九月二日純又遺誥洋領
坐百城六百石

同十六子壬午二月十一日

桂昌院敘正叙

從一位時為賀使上京同十九日任侍從
九月十一日 帝憲公渡御于宗後宅時加
坐二万石為部令七万石賜坐百賜遠力

淡松嶽

寶永二子乙酉二月廿一日

文照公於三凡以

松平氏賜又子三人

正徳元子辛卯六月及補正徳元後古正

古老中改名伯孝古

享保元子丙申七月

御代當節遊御

偉宗字改賢後

同八子癸卯十月日致

女

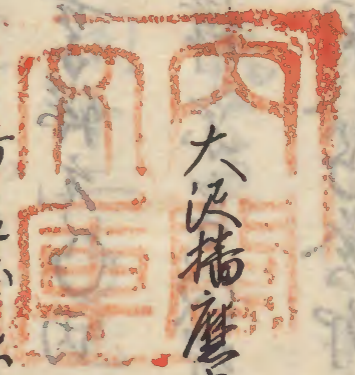
六角越前守廣津守同子廣業及女子四人母

女

具味能老古宗賢室

女

大次播磨吉基次室曰左左希基次曰左邊智英方册



知志

少名中左又明 札册
富田甲斐吉 位下位下

母同上

室产田古依古忠是女

为富田吉照知照吉子

元福六子癸酉十二月廿一日出女之婚院后

教母继家智沛能二子石次古在賜院水料同

九子丙子十二月廿二日教從六位下任甲斐

古同女八日沛沛家智之事

康守

少名中左伊沛吉大藏
教野因防吉 位下位下

母同上

室中室中室系備中吉長吉吉女

實右也持監
忠樹下位下

为牧野遠江吉康通吉吉子是依依又足吉

小德也

元禄元子戊辰七月廿六日純家留洋从越後
与坂一万石

同日子九月日先收

同日子月日加是一万石情与坂洋从信

及中宝城邑二万石為居旨張

享保八子十一月 日致

少名三郎吉
松平氏依吉
松平氏
延六位下
如右中九月日吉

字儀

丹波野佐佐吉膳富共

室松平越中吉定重女

元禄十子 十二月廿二日叙坂外位下任日向吉

同日子 六月 日執前餐

寶永二子乙酉三月廿二日又子三人賜松平氏

改稱松平氏作吉

早世

字方

松平之孫
實才為貴子

早世

宗春

少経豊大寺
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正
松平内膳正

母同上

元禄十六年十一月廿七日叙従六位下任左衛門尉

十二月十六日在神

寶永二年三月廿六日又子三人賜松平氏改称

松平内膳正十月廿四日為桂昌院殿御子公深候

一万石

同六年十一月廿日歿

宗權

松平三曰布

始宗長

實才為養子

寶永六年十二月廿六日德又遺傳銀二万石

未幾早世依知女不及養子少法为上以絶

宗方
初元之孫

為兄員作与宗伝養子

母同上

宗長

本居三河守

為兄内膳正宗長子

母同之

女

松平松清古殿若室

母同之

女

島原丹波吉忠利室

母同之

寶永七年

十二月廿日歿

宗長

本居三河守

資訓

少名圖書

松平豊後守

圖書以

従六位下

如宗悖

實依野依濃古膳富男

室松平右系美禰貞

白徳二子

二月七日為出子

同口也

六月晦日余自今月次出子

享保八子

十月日純又遺傳居松

城七万石為居台様

同九月 四月日奉甲府在番之命

某

松平万二郎
實依野依濃古橋富次男

女 婚表授古親齋室

元禄十一子 七月十九日歿

松平左近守 從六位下

實宗後末男

本九年七月

道孝

或道高

母身津若江門

女 同能光古
字實伯母之

寛文八子 八月日德文遺体从口子石

於野良足利每英濃之内 常憲公為法

甚若入江城时依奉 河本丸入寡命之

列

元禄十子 八月十六日歿

女

行本

大沃出雲守基中室

母同道章

為同膳守宗資女嫁之

元祿六年癸酉六月十日歿

女

石川長祿

姓名
八十席妻

母

女

作部守入長榮孫男

松平駿河守佐重室

道章

御元太師表

母六角兼左衛門廣賢女

六角兼左衛門
廣賢妹也

為兄道孝長子

道章

少名左衛門表

織部

御元太師表

從六位下

實方

始有仕 常憲公御側小姓

元禄十^〇 七月十一日為兄道孝菴子終之遺詔

洋館口子石

同十二^〇 月日加忠六子石洋館口子石

於濃呂高旨

道維

少名久左衛門 織部
加久大和守 從六位下

始道祝

母

室

某

加久久左衛門

母

Faint vertical text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

Small vertical text on the right page.

Small vertical text on the right page.

Small vertical text on the right page.

Small vertical text on the right page.

Small vertical text on the right page.

森氏 源姓

家紋

Faint vertical text below the name.

茶

隠皮河内古

Faint vertical text.

Faint vertical text.

女

中丸因幡古字賀家

女

寶永二乙酉八月六日歿

法名春照院

Faint vertical text at the bottom left.

宗俊

始名中元書院也

作春也

從四位下

侍從

女

六角親前也廣法室

女

具津能光也字賢室

女

大次播磨也奉次室

和忠

面田甲斐也

始名中元又助

康重

牧野周防也

始名中元侍從也

賴利

始名中元
安房也

河内也
從六位下入於祿安公

天和二年壬戌十二月 日於西九月 辰出

春仕 淨德院教賜百六十俵入御小

姓組

貞享元年甲申十二月 日為二丸御廣式

春歌

元禄二子己巳八月日為三凡河用人依因三
右清川列為賜地方日百石

同六子癸酉十一月日加恩二百石

同十二子己卯十二月朔日叙從六位中經

河内吉加恩日百石

寶永元子甲申四月日賜子石舍田叙

从二子石

同二子乙酉六月廿日入小菅法九月廿日改稱安房守

同六子戊子八月六日隱居

正徳六子丙申六月十九日歿

賴廣
少名美早 之後 叙子
嘉右京 入於稱虎山

或於之

元禄四子辛未十二月日入河小姓組賜三

百俵

同十一子戊寅正月十八日依病歿奉新入

小菅法

同十二子己卯十一月九日奉新淨番

同十四日辛巳八月廿一日所着依不扣入
小童陸

寶永六子戌子八月六日繼父家智洋依二
子石

享保元子丙申十一月六日隱居
同七子壬寅四月十二日歿

女 格取内服妻

榎妻 姓名大蛇中知 歳在道

寶大野武吉史 男

享保元子丙申十一月六日繼父家智洋依
二子石入小童陸

園十... 本已... 所... 係... 在...

... 係... 係... 係...

... 係... 係... 係...

... 係... 係... 係...

某

依北野氏

依野氏 友系姓 家紋 上羽蝶

某

依北野氏

某

依北野氏

少名丸九郎
佐野信俊

長岑
佐野信俊

勝面

室中左大臣光胤 室利女

左大臣 常憲公

元祿六年己亥閏六月廿二日 御致先降入
寄合

同十六日壬午十一月廿七日 叙從六位下
任佐濃守

寶永二年乙酉三月廿二日 加冠二子左舍頭

能三子石

同七日庚寅正月廿一日 歿

佐野助十郎

常憲

常憲公

女

松平伯耆守 常後室 曰英作吉内膳正母

某

姓名古之儀
佐野修理亮

從六位下

常仕

常憲公為

禁裏附

直行

姓名古之儀
佐野修理亮

從六位下

常仕

常憲公為

桂昌院殿御姊

瑞光院殿之系

進友氏

友系姓

家紋

唐合

紅板筑後守

某

某

紅板修理亮

某

正夜筑後寺

某

正夜修理寺

某

正夜大和寺

某

大宮大和寺

從四位下

後入道号修德宗

實近衛殿家司正夜筑後寺次男也為二條殿

家司大宮氏出子仕二條殿後執后弟於

山科藤原氏源宗實元祿六年正月

日於彼地八十餘年而歿

女

大沃丸基基哲妻曰出雲子基母

母曰新太郎

正夜新太郎

某

母本在寺師出衛宗利女

後稱瑞光院

桂昌院殿御

同胞之御婦

年仕 德松君天和二年六月廿八

日 御年世下付派人京伯下下下

元祿二子 鹿年石垣町發初夜定一瑞自
審次

義宮

少名小三郎
正夜流階古

伴右衛門
從六位下

室六角鐵前古廣作女

元祿二子 鹿年九月日元服改稱伴右衛門

同七子 甲戌十一月朔日始元 正出為祖

母瑞光院名瑞流領女石并街合力又

女子兩為中身街小姓

同八子 乙亥七月廿二日整婚儀

同九子 丙子十二月廿二日叙從六位下任

流階古

後依不引瑞流總員園岩城之牧野彼前古
成妻不引漫收

元福之〇九年平定相國政和元年之〇月

...

...

...

...

...

...

桂昌院殿御好君

...

香桂院殿由緒

...

附

六角家傳

...

六角氏

友系姓

日野

六角

家紋

鶴丸

大織冠禰足孫

真菱

潰雄

...

...

家宗

弘彦

繁村

暲通

有國

資業

資綱

有依

資實

資長

兼光

資實

家光

資依

俊光

資名

時光

資康

資光

資恒

光元

光康

光宣

光廣

馬丸大納言 正二位 法雲院奉旨公

寛永十八年戊寅七月十二日

入十二氣

賀義

馬丸大納言 正三位

光賢

右大將 從三位

光榮

少名留磨
右大將

廣賢

六角堂在持頭 從四位下

或廣隆

後水尾帝之二皇子中照院二守守隆

澄法親王之教官所降範也守澄法親王依
下向國東叡山所住藏所廣賢供在于時
後水尾帝勅賜六角堂氏

廣派

少名六角堂氏母
六角御前古

孫九郎
從四位下

左權臣
侍從

母松下左門源義賢女

後祿裔
桂院

在仕 教有公 常憲公

東叡山本照院所跡守澄法親王依於
為稻葉貞濃古 正別之教子也實子中始

在仕 教有公賜之百俵入大御番之後入
所小姓組大久保清隆古組加賜百俵古
後依 常憲公命源於下野是利依之內非
元祿二己巳閏正月廿六日為之家賜加悉
子在所設料子依二月廿八日叙從四位下
但侍從兼執事古
同九月丙子七月十日之家免許致之宅地
遠處時四十二氣

女 中九年七郎及孝室

廣業

少名虎衣
六角之威

母本元因幡守宗資女

有仕 常憲公 文昭公 有章公 今大

君

元祿十三年乙亥辰巳月二日繼父家督成三

子名於野良是利成之口入仕官高家列世

時父廣業塾生

女 是坂澄江守殿宮室

女 於おと

女 小竹 戸田中務左衛門長具室

桂昌院殿仕首慶光院一御中緒有と承元正出

御同是ありて為伯母永光院表女嫁之永光院

々 大猷公御親女於梅の方侍様慶光院の位

持守也

女 桂村内通介

寶永二子乙酉閏四月二日歿

某

實牧野内膳正康周才

寶永八子辛卯六月十六日為養子

具津氏 源姓

家紋 丸門花菱

● ● ●
某

具津名五郎

某

具津名五郎

女

如左宮内少輔宗孝室同平七郎及孝母

宗賢

姓在名五郎門
具津能克吉

從二位下

冊

常憲公

女

唯念寺院家室

某

與休

母如元因幡吉宗實女

桂昌院殿河姪年

大澤基哲傳系

大沢氏

友系姓

家紋若新

基胤

大沢左衛門允

基宥

母

大沢基祐

從四位下

左近衛權中將

大沢基任 東照表如為高家

天正十六年戊子十一月晦日叙従六位下任侍従
兼兵部左輔

慶長六年乙巳正月朔日叙従四位下

同十年乙巳三月廿二日任左近衛督少将寛永

九年壬申月日隠居雜賀稱志林入道

同十七年乙巳正月廿二日致

基重 大次右京大夫 従四位下 左近衛督少将

母

存仕 東照若 台徳公

慶長十八年庚戌十二月廿八日叙従六位下任

侍従兼右京大夫為高家 于時九氣

寛永九年壬申月日繼父家督任太子

石

正保二年乙酉十二月晦日叙従四位下任左

近衛督少将

天保十一年三月庚寅六月廿六日歿下位侍從

大次左之衛尉

基哲

室大官大藏左補入道宗如女

左仕 常憲公深於子石為長崎奉行

少名保三郎
大次出雲守

越中守
從四位下侍從

基珍

姫基由

某母大官大藏左補入道宗如女

繼父家督於子石為高家

如名格七郎
大次左之衛尉

某

母家女

左仕 常憲公深於子石

大次常刀

某

大次左之衛尉

從四位下

左近衛權少將

基將

左仕 大猷公 嚴有公

德又家督源氏太子石高家

正保元年甲申十二月廿日叙從四位下任左近

左輔

同日丙戌十二月晦日任侍從

寬永三年丙寅六月二日任左近兼檢少將

基好

大次若連兼 從六位下 侍從

在仕 慶有公源氏太子石高家

寬永四年癸未十二月廿九日叙從六位下任侍從

基次

少名之水
大次播磨守

從四位下 侍從

室中左近因幡守家資女

在仕 常憲公德又家督源氏太子石

元祿二年己巳二月廿八日叙從四位下任

侍從

同日辛未十月廿日歿

女

十四日去彼古室同夜之播磨

基隆

大次友右衛門

母中元宗賢女

常仕 常憲公

元祿四年辛未德又家督於二子石

英方

大次右衛門督

母同上

基為同氏右系太史英久貴子

基

大次織部

英久

大次右系貴

從四位下

左近衛權女將

如基清

貴族兼大學頭高次男

常仕 常憲公德又家督於六子石為子家

寬文十二年壬子十二月廿八日叙從四位

下江侍従

貞享四丁卯三月常憲公將軍宣下時

為契使保科肥後守正信去上洛時任九上

勘檢少將

元祿

月日没

英方

姓名大御門
大澤 始基方

從四位下侍従

實因氏播磨吉基次二男

母松平下徳吉忠明女

室

徳又家若澤氏六子石高子家

富田氏

富田家の先祖は富田左近將監源兼佐の

男佐佐木高信高勢長阿流傳七万石に依り

慶長六年八月廿六日城を明け一

为田寺修寺高田川源寺又欠迎后焚谢
之罪并祀高野山同十二子戊申再賜豫
及松山城十二万石然为起又同十八子矣
五月八日姊年石及津和野城之恆信討
馬寺次政始称字甚多在事危正利於人於
東照宮 台德公御前公事初决及争論信
高依北分御前子表作豫寺之後死于奥良
岩城平寺最在事危次政始信高才姊二人
有弟八依野信理去吏正德名大久保石足

寺名安要事 嘉祿之 高依保丸男上段收事嘉
保北嘉信妹於六之号有英也 東照宮為
御側女去御冠也の和御他界の後不離
廢依慢之容取為古河足利家分寬永
二年乙丑三月十七日 東照宮靈前燒香
時忽於死知我志依高子石正出 將軍家
賜二子石依 桂昌院殿御光再與富田家
依二子石元孫九子 丙子十二月廿二日与
友清源寺藏名因討叙從六位下任甲斐寺

為中興御小姓一極同席抄勤同十二子乙卯
七月十日賜妹年六兩越前古廣依之有受
寶永二乙乙酉三月廿二日加恩三子在舍用
加於女子在也
...
...
...
...
...
...
...
...
...

御書御女傳卷十三

忠中具行... 攝同... 皇國... 乙卯
乙卯... 攝同... 皇國... 乙卯
乙卯... 攝同... 皇國... 乙卯
乙卯... 攝同... 皇國... 乙卯

柳官婦女傳系

柳官婦女傳系 十二

桂昌院殿御姊 十一

柳營婦女傳系 卷之十二

桂昌院殿御姊
瑞光院殿之傳

附
折公願寺并伎樂院由緒

常憲公御母壹桂昌院殿御姊表瑞光院殿
之京都山科邊長保大宮大為大彌後御殿
宗賀と改稱せし人の事也桂昌院殿御姊
表たれま 折軍部より其の御池乞ふ

也宗賢の所堂本下法系とて一者其妹に
戸石所と云ふ一夏ハ晒帷子冬ハ草履
袋など高いし一肩多くか来しゆ
に戸と火落して弟於て死す身の遺形
身となり法縁宗賢の方と傳ふとせしむり
御方、宗賢の嫡男近友新六身以旗本と云
ふ宗賢史婦ハ拾余歳なるを老妻法公
之なきごとく御育の爲重於て位長くふ可
し新六身之妻のち不妊跡とて京於祇園

八坂の茶屋或る湯屋と云い公孫門跡等
とがしらい花奥と傳りし故難司揃丸
徳川代箱系丹後古の市より出さきし時
丹後古と云ふ事なれハ遠を於し
又如し時中たあより中をい新六身自害せ
れし時法系 幸り公清の妹末能法して
後宗賢史婦と云ふ事なりと死す
也御方、桂昌院殿より御婦表瑞光院殿へ
移せられり宗賢死去御悔しむ事

嘗て也治ひぬん沙磨なりは江戸へ以部わ
悉く治をされし事と云ふに以部治く重く又
治をせりは江戸は沙知の村分を治
ひくは世と云ふは沙知才御村面を治事
親の毒れ也治をされし事は以部入親を
く先凡吏の儀候し死に江戸又都三天下
の御威勢と見し浦山し心と云ふ如き
ゆふれ未練と起りぬ(きれ内くけ方
張作波し御威光の心安く言しゆはを

御治と親と世と候し事御要なり也
此(き)の君は江戸中(ちゆう)に好(こ)し事御免下
さるしと云ふ事候し
常憲云々(と)治をされし事は母方北伯母
ひと重(おも)く候し事也(と)云ふ天下(てんか)に在(あ)り事候
せしして對面(たいめん)なる死(し)候(こう)沙(さ)知(ち)の毒(どく)も(と)思(おも)ふの
申(まを)治(ち)をされし事(こと)は瑞光院(すいこういん)殿(でん)治(ち)をされし後(ご)
く此(こ)れ(と)天下(てんか)の伯母(はくぼ)と治(ち)をされし事(こと)
御有(ご)任(にん)合(が)御(ご)治(ち)をされし事(こと)及(およ)び海(うみ)北(きた)中(ちゆう)の事(こと)也(なり)

清之宗と下悞し可連江戸へ下向するに 將軍家
并に中尾家の沙一勢一對面を比を元祿
七年比去也 將軍家より瑞光院殿一御
逗留の由を子儀より其の沙合口とて是
ら御多事年六月十日死去也是子儀と其
云はれ也事終る迄余より送葬を江戸淺草
松之願寺中收樂院に於て心吊りおるに
念余へを友伴と爲ると本下清之宗と沙合口と
沙葬礼也之後伴と爲りは瑞光院殿儀式又

子石下向備法合力より儀と子儀の御領也
清之宗八瑞光院殿支辨へ数年回好交せし
有桂昌院殿御座浦法書より其の御
候へ沙加増を桂昌院殿御家包より其の
候へ桂昌院殿一位より沙任爵は其の御
事と河内守堀八重と其の御後者本下
清之宗と和泉守若三人在り徳太夫より
何れより御

桂昌院殿御逝去の後若中兼後に入和泉

与死後之嫡本下流之米取留之之法
同附之形り交付の件事一在仍と如存
古より何也之故

一を存存在焉とを存新大弟嫡子として初名小太郎
と稱し又新大弟死後本元同嫡吉方へ川取江戸
大蔵少く三丸河用屋敷と出く出育元後
伴右馬と名と改め元禄七年甲戌七月朔
陽光院殿詔式大寺石堂以下中奥以小姓と

後付之縁を存留因形あり又中奥以小姓と白後
後妻持より之の中嫡として出く礼に任法更
是因形あり任甲斐吉方を存存在焉後流吉方
任之形を後流流吉方以六角親前守長女小
番妻と稱す之身不仍流し任之六角親前
任之妻由任流し礼取此流吉方と在流之
小川河用屋敷も在之と是初元同嫡吉方へ下り
付留存始八初元七年七月朔元形り年七月朔八日
友之形同不上流吉方と任流此今小川河用屋敷存
是如り

一 江戸浅草田代山誓願寺と 桂昌院殿御書

提下とて打て 桂昌院殿御書御筆

法中法を抄る御寺誓願寺 收樂院の御書

束和尚と京師出せしと 中京京師の一

勢なり是又依て 御書同懐古法入

京師京より法書又懐く 京師又八公井

大炊政家御書御筆 京師京師の御書

京師中より法書又懐く 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

之身一因懐古と懐く 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

御書御書御書御書 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

京師京師の御書 京師京師の御書

阿比原寺於上りりて之男幼少とて拓公親吉より
て如也又、此寺河下、收樂院と平僧の事、此れを
收樂院とて、是れ是れ也、本寺拓公親吉と河建立下
り、是れ是れと一向中、一と云ふ、又達、拓公親寺
用卷上人、并、收樂院とて、是れ是れ也、此れ神宗川
溪口村、又拓、二言、之河、寺附、の河、集、下、と下
り、是れ是れ、河下、大、拓、石、以、收樂院、又、賜、聖、照、光
山、安、養、寺、と、改、稱、也、大、河、建、立、以、元、祿、十、年
丁、丑、三、月、八、日、也、并、之、單、卷、上、人、又、作、付、也

寺院と拓公親吉隣り、安松平、是、安、宅、地、と、云、下
也、勿、論、中、寺、拓、公、親、吉、用、卷、上、人、為、之、建、又、付、付
ら、河、下、河、支、傍、在、り、氣、同、付、之、入、り、此、地、後、建、る
時、之、單、卷、上、人、六、日、同、下、近、化、也、去、是、在、拓、遠
形、之、安、養、寺、河、建、立、之、今、因、幡、寺、付、名、と、安、養、寺
と、号、也、安、養、寺、八、安、養、寺、氏、小、し、也、伯、父
甥、の、事、也

